

リーマン・ショック以降のカナダの ニュー・ブランズウィック州の経済動向

栗原 武美子

目次

- 1 はじめに
 - 2 経済成長率および失業率からみたニュー・ブランズウィック州の経済動向
 - 3 貿易からみたニュー・ブランズウィック州の経済動向
 - 3-1 貿易額および貿易相手国の特徴
 - 3-2 貿易品目の特徴
 - 4 まとめ
- Abstract

1 はじめに

2008年のアメリカ合衆国（以下、アメリカ）発のリーマン・ショックにより世界中に金融危機が広まり、これが実体経済に影響を与え、世界同時不況が進行したことは周知の事実である。但し、個々の国や地域にどのような影響が及んだのかという点に関する具体的研究は、まだ十分に蓄積されていない。そこで本稿では、そうした研究をさらに推し進めるべく、2008年以降のカナダのニュー・ブランズウィック州を取り上げ、その経済動向の特徴の解明を試みている。

なお、本稿は、拙稿「リーマン・ショック以降のカナダ経済の動向」¹⁾、「リーマン・ショック以降のカナダ4州の経済動向」²⁾、「リーマン・ショック以降のカナダ平原2州の経済動向」³⁾、「リー

-
- 1) 栗原武美子 (2013)、「リーマン・ショック以降のカナダ経済の動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第1号、pp. 117-137。
 - 2) 栗原武美子 (2014a)、「リーマン・ショック以降のカナダ4州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第2号、pp. 117-142。
 - 3) 栗原武美子 (2014b)、「リーマン・ショック以降のカナダ平原2州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第40

マン・ショック以降のカナダのニューファンドランド・アンド・ラブラドル州の経済動向」⁴⁾ および「リーマン・ショック以降のカナダのプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向」⁵⁾ で検証されたカナダ一国とカナダの国内総生産（GDP）の上位6州（オンタリオ州、ケベック州、アルバータ州、ブリティッシュ・コロンビア州（以下、BC州）、サスカチュワン州、マニトバ州）、およびニューファンドランド・アンド・ラブラドル州（以下、ニューファンドランド州）ならびにプリンス・エドワード・アイランド州（以下、PEI州）の経済動向を踏まえて、1州限定ではあるが州レベルでの経済動向の検証を行なうものである。と同時に、本稿はまた、拙著『現代カナダ経済研究』⁶⁾ の第2部のうち1州に限定したその後の展開という位置付けを持つものである。なお、拙稿（2014a、2014b、2015、2016）と本稿で検討されていない州は沿海州⁷⁾ のノヴァ・スコシア州のみで、同州については紙面の都合により別稿で論ずることとしたい。

2 経済成長率および失業率からみたニュー・ブランズウィック州の経済動向

カナダは10の州（Provinces）と3つの準州（Territories）から構成されている。州政府は州内における政治・経済・社会・文化面での権限を有している一方、準州は連邦政府に属しており、州政府のような権限を付与されていない。本稿では、沿海州のニュー・ブランズウィック州に焦点を当てて、リーマン・ショック以降のその経済動向の特徴を明らかにすることを目的としている。

2014年のカナダの名目GDP総額（支出ベース）は1兆9,730億カナダドル（以下、ドル）であった。同年、カナダで最大のオンタリオ州の名目GDPは7,220億ドルで、第2位以下の名目GDPはアルバータ州の3,758億ドル、ケベック州の3,701億ドル、BC州の2,372億ドルであった。4州の名目GDPの合計はカナダの名目GDP総額の86.4%に匹敵する⁸⁾。

上位4州に比較すると、平原2州と大西洋カナダ4州の経済規模は小さく、名目GDPはそれぞれ

巻第1号、pp. 169-193。

4) 栗原武美子（2015）、「リーマン・ショック以降のカナダのニューファンドランド・アンド・ラブラドル州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第41巻第1号、pp. 137-157。

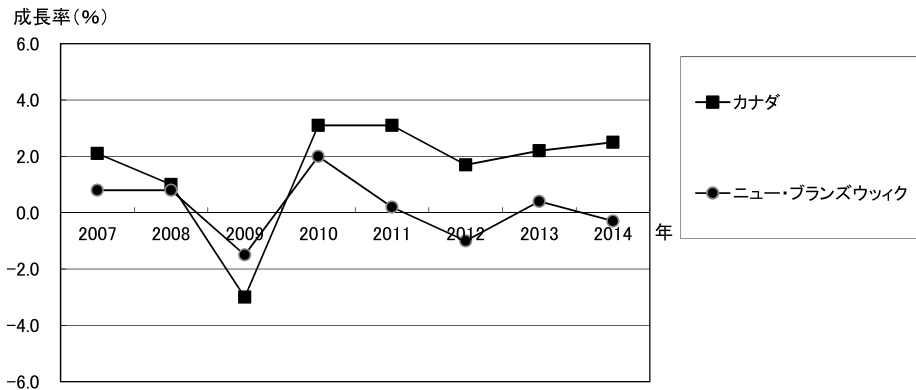
5) 栗原武美子（2016）、「リーマン・ショック以降のカナダのプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第41巻第2号、pp. 57-75。

6) 栗原武美子（2011）、『現代カナダ経済研究：州経済の多様性と自動車産業』、東京大学出版会。

7) 沿海州（the Maritimes）は、ノヴァ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州、プリンス・エドワード・アイランド州の3州を指す。この沿海州とニューファンドランド州を合わせた4州は大西洋カナダ（Atlantic Canada）と呼ばれている。

8) 出典、Statistics Canada（カナダ統計局）、CANSIM Table 384-0038（2016年8月13日アクセス）。なお、カナダの名目GDP総額と、10州および3準州の名目GDPの合計値は一致していない。また、本文のGDPは、出典の表に掲載されているGDPの千万ドルの位で四捨五入した値が記載されている。

図1 2007年から2014年までのニュー・ブランズウィック州の実質国内総生産（GDP）成長率



出典) Statistics Canada, CANSIM Table 384-0038 (2016年8月13日アクセス)。

れサスカチュワン州の828億ドル（第5位）、マニトバ州の641億ドル（第6位）、ノヴァ・スコシア州の391億ドル、ニューファンドランド州の335億ドル、ニュー・ブランズウィック州の321億ドルである。PEI州は10州の中で経済規模が最も小さく、名目GDPは60億ドルで、これは最大のオンタリオ州の120分の1でしかない⁹⁾。

図1は2007年から2014年までのカナダおよびニュー・ブランズウィック州の実質GDP成長率（前年比、2007年連鎖ドル）を示したものである。カナダの成長率は2007年に2.1%であったが、2008年には1.0%へ減少し、リーマン・ショック直後の2009年にはマイナス3.0%を記録した。しかし、2010年以降には経済はプラス成長に転じ、2010年には3.1%、2011年には3.1%、2012年には1.7%、2013年には2.2%、2014年には2.5%の成長率を示した¹⁰⁾。リーマン・ショック後のカナダ経済の動向は、先進7ヶ国のなかでも優れたパフォーマンスを示すことが特色となっていた¹¹⁾。ところが、原油価格が2014年7月から下落を続け、2014年第2四半期の1バーレル当たり106.3USドルのスポット原油価格が2016年第1四半期には32.8USドルにまで下落した¹²⁾。このような原油価格の下落の影

9) 同上。

10) 本稿の実質GDP成長率はカナダ統計局のデータを用いている。前掲書・栗原（2013年）ではカナダとアメリカを2013年と2014年の推計値を含めて対比するため、IMFのデータを用いた。このため、本稿と栗原（2013）でのカナダの実質GDPの値は一致していない。また、本稿と栗原（2014a、2014b、2015、2016）では実質GDP成長率をカナダ統計局のCANSIM Table 384-0038に依拠しているが、2015年11月10日に値が修正されているため、2016年8月13日にアクセスしている本稿とそれ以前の論文では値が異なっている。

11) 前掲書、栗原（2013）、pp. 118-120。

12) 原油価格はブレント、ドバイおよびWTI（ウェスト・テキサス・インターミディエイト）のスポット価格

表1 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の産業別国内総生産（GDP）の比率

（単位：％）

ニュー・ブランズウィック									
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
財生産業 [T002]	27.8	26.5	24.2	25.4	25.7	25.3	26.2	25.6	25.3
農林水産業 [11]	2.5	2.4	2.5	2.6	2.3	2.7	2.7	2.9	3.2
鉱業・オイル・ガス採掘業 [21]	3.3	3.3	2.1	2.6	3.1	2.7	1.8	1.6	1.8
電気・ガス・水道業 [22]	3.7	3.0	2.7	2.7	3.0	3.0	3.6	3.8	3.7
建設業 [23]	7.0	7.7	7.4	7.5	7.3	6.9	5.6	5.4	5.3
製造業 [31-33]	11.3	10.1	9.5	10.1	10.0	10.0	12.4	11.9	11.2
サービス生産業 [T003]	72.2	73.5	75.8	74.7	74.4	74.7	73.8	74.5	74.7
卸売業 [41]	5.6	4.8	4.6	4.2	3.9	3.7	3.7	3.7	3.8
小売業 [44-45]	6.5	6.6	6.8	6.6	6.3	5.8	6.1	6.4	6.6
運輸・倉庫業 [48-49]	5.2	4.8	4.6	4.8	4.6	4.7	4.7	4.8	4.6
情報・文化産業 [51]	3.0	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0
金融・保険業 [52]	5.0	5.1	5.1	5.1	5.2	5.2	5.2	5.3	5.4
不動産・レンタル・リース業 [53]	10.6	10.9	11.5	11.6	11.6	12.1	12.1	12.3	12.0
専門・科学・技術的サービス業 [54]	3.1	3.3	3.3	3.2	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3
会社管理 [55]	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
管理サポート・廃棄物処理・浄化サービス業 [56]	3.9	4.0	4.3	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	3.9
教育 [61]	5.7	5.9	6.4	6.2	6.2	6.3	5.8	5.4	5.8
ヘルスケア・社会福祉 [62]	8.5	9.0	9.5	9.4	9.4	9.6	9.7	9.9	9.8
芸術・娯楽・レクリエーション [71]	0.5	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
宿泊・飲食業 [72]	2.0	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1
その他のサービス業 [81]	1.9	2.0	2.0	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0
政府関係 [91]	10.1	11.0	11.5	11.3	11.5	11.6	11.4	11.3	11.2
全産業 [T001]	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) カッコ内の数字は北アメリカ産業分類システム（NAICS）の分類番号を指す。

出典) Statistics Canada, CANSIM Table 379-0028 (2016年8月13日アクセス)。

響を受けて、カナダの実質GDP成長率は2015年第1四半期にはマイナス1.0%、同年の第2四半期にはマイナス0.5%を記録し、リーマン・ショック以降に初めて景気後退に陥った¹³⁾。

これに対して、ニュー・ブランズウィック州の実質GDP成長率は2007年から2014年にかけて、2009年を除くと、カナダ全体の実質GDP成長率をすべて下回った。より詳細に検討すると、2007年と2008年の経済成長率は0.8%であった。リーマン・ショック後の2009年にはマイナス1.5%となったが、カナダ全体の経済成長率ほど下落しなかった。2010年には経済成長率は2.0%の増加をみたが、その後の経済成長率は2011年の0.2%、2012年のマイナス1.0%、2013年の0.4%、2014年の

を単純平均したものである。IMF Primary Commodity Prices, Monthly DataおよびPrice Forecasts (August 18, 2016) を参照、<http://www.imf.org/external/np/res/commod/index.aspx> (2016年9月18日アクセス)。

13) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 380-0064 (2016年9月18日アクセス)。

マイナス0.3%と、景気は低迷している。

表1は2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の産業別GDPの比率¹⁴⁾を示したものである。同期間中、財生産業のGDP全体に占める比率は2007年には27.8%であったが、2013年を除くと2010年から2015年にかけては25%台であった。また、サービス生産業の比率は2007年には72.2%であったが、2013年を除くと2010年から2015年にかけては74%台を占めていた。

一方、2015年のカナダ全体の財生産業は29.8%、サービス生産業は70.3%で¹⁵⁾、財生産業とサービス生産業の比率は約3対7と言えよう。ニュー・ブランズウィック州の経済は、カナダ全体と比較して財生産業の比重が4.5%小さくなっていることが特色として挙げることができる。

ニュー・ブランズウィック州の産業部門を個別にみると、財生産業の中では製造業（9.5%～12.4%）や建設業（5.3%～7.7%）が主たるものである。農林水産業（2.3%～3.2%）や鉱業・オイル・ガス採掘業（1.6%～3.3%）の比率は小さい。また、サービス生産業の中では不動産・レンタル・リース業（10.6%～12.3%）、政府関係（10.1%～11.6%）、およびヘルスケア・社会福祉（8.5%～9.9%）の占める比率が高い。

財生産業の中でGDPの比率の高かった製造業について、2015年のニュー・ブランズウィック州の製造業出荷額合計は169億5,908万ドルであった。その内訳をみると、食品製造業、製紙製造業、石油・石炭製品製造業などを含む非耐久財製造業は138億107万ドル、一方木材製品製造業、金属製造業、機械製造業などを含む耐久財製造業は31億5,801万ドルであった¹⁶⁾。

非耐久財製造業が81.4%を占めているが、統計上の守秘義務のため個々の製造業の数値は開示されていない。このため、出荷額を基にした個別の製造業については詳細に論じることができない。しかし、後述の輸出品目および輸出額から、石油・石炭製品製造業、木材製品製造業、紙製品製造業、パルプ製造業が盛んであると推定することができる。

石油・石炭製品製造業については、セント・ジョン市（Saint John）にはアーヴィン・オイル社（Irvin Oil Ltd.）の石油精製所があり、1日当たり30万バレルの原油を精製している。この精油所はカナダ最大であり、北米の10大精油所に入る¹⁷⁾。ここの精油所で精製される原油はカナダ産のものだけでなく、アメリカやサウジアラビアといった外国からの原油が精製されている¹⁸⁾。

14) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 379-0028 (2016年8月13日アクセス)。

15) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 379-0031 (2016年8月16日アクセス) から算出。

16) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 304-0015 (2016年8月18日アクセス)。

17) Irvin Oil, "Refining," http://irvingoil.com/operations_and_partners/operations/refining/ (2016年8月18日アクセス)。

18) Terry Etam, "Saudi Oil Filling a New Brunswick Refinery: What Kind of a Domestic Energy Policy is That?" <http://boereport.com/2016/01/25/saudi-oil-filling-a-new-brunswick-refinery-what-kind-of-an-energy-policy-is-that/> (2016年8月18日アクセス)。

現在、トランスカナダ社（TransCanada Corp.）によるエナジー・イースト・パイプライン（Energy East Pipeline）計画が持ち上がっている。既存の3,000kmのパイプラインに新設の1,500kmのパイプラインを追加して、西部のアルバータ州やサスカチュワン州の原油を1日当たり110万バレル輸送し、ケベック州やニュー・ブランズウィック州の精油所で精製する計画である¹⁹⁾。サウジアラビアなどの外国産の原油に依存するのではなく、パイプラインを敷設することによってカナダ国内の原油を利用しようとするものである。この計画が実現すれば、カナダの原油輸入額が減少し貿易収支にも好影響を与えることが予想される²⁰⁾。このパイプライン計画をニュー・ブランズウィック州首相は賛成しているが、Edmundston市長のようにパイプラインが分水嶺の下を通るルートに疑問を呈する市長も存在する²¹⁾。

林業について、ニュー・ブランズウィック州はカナダの10州の中で最も森林資源を活用しており、2013年には1年間の再生率100%を超える109.37%の伐採量があった。また、カナダ全体のGDPに対する林業の比率は2013年に0.2418%であったが、ニュー・ブランズウィック州の比率は0.9282%で10州の中で最も高かった²²⁾。林業はニュー・ブランズウィック州の経済の土台と考えられている。林産物を活用する木材や紙製品製造業は石油精製業に次ぐ製造業であり、2010年にこれらの最終製品の80%は世界中へ輸出されている²³⁾。

パルプや紙製造業の具体的な事例として、アーヴィン・パルプ・アンド・ペーパー社（Irvin Pulp & Paper, Ltd.）があり、同社はセント・ジョン市にパルプ工場を持ち、年間33.5万トンのクラフトペーパーを生産している²⁴⁾。また、同社は「スコッティ」ブランドのティッシュペーパーや、「ロイヤル」ブランドのトイレットペーパーを生産し、アメリカ向けに輸出している²⁵⁾。さらに、パンフレッ

19) TransCanada, “Energy East Pipeline,” <http://www.energyeastpipeline.com/about-2/route-map/> および <http://www.energyeastpipeline.com/about-2/need-for-a-pipeline/>（2016年8月18日アクセス）。

20) 前掲、Etam、およびARC国別情勢研究会（2015）、『ARCレポート：経済・貿易・産業報告書、2015/2016、カナダ』、ARC国別情勢研究会、p. 107。

21) CBC News, “Edmundston Mayor Questions Energy East Pipeline Route,” <http://www.cbc.ca/news/canada/new-brunswick/neb-hearings-unanswered-questions-1.3721264>（2016年8月18日アクセス）。

22) The Conference Board of Canada (2016), “Use of Forest Resources,” <http://www.conferenceboard.ca/hcp/provincial/environment/forest-resources.aspx>（2016年9月4日アクセス）。

23) New Brunswick Forest Products Association, “About Us,” <http://www.nbforestry.com/about-us-2/>（2016年8月20日アクセス）。

24) J.D. Irving, Limited, “World-class Pulp Quality and World First Innovation for the Environment,” <https://www.jdirving.com/jd-irving-products-services-forestry-products-irving-pulp-paper.aspx>（2016年8月20日アクセス）。

25) J.D. Irving Limited, “Quality Parent Rolls of Tissue for Leading Consumer Brands,” <https://www.jdirving.com/jd-irving-products-services-forestry-products-irving-tissue.aspx>（2016年9月5日アクセス）、およびChristopher Williams, “Atlantic Canada’s Forest Products Sector Benefits from Effective Ports, Road and Rail Connections,” <http://>

トや雑誌用などの印刷紙²⁶⁾を生産している。

外資系企業としてインドに拠点がある Aditya Birla Group は、ニュー・ブランズウィック州に子会社 AV Group NB, Inc. を持ち、同州の Atholville と Nackawic に 2 つの溶解パルプ工場を持っている。Atholville 工場は年間13.2万トンの溶解パルプを生産する能力を有し、このパルプは Aditya Birla Group のインド、タイ、インドネシアでビスコース繊維を製造する工場に供給されている²⁷⁾。また、Nackawic 工場ではレーヨン用のセルロース製品を製造しており、製品はインド、タイ、中国、インドネシアの Aditya Birla 社の繊維工場で使用されている²⁸⁾。

農産物加工について PEI 州で論じたように、ニュー・ブランズウィック州フローレンスヴィルに本社があるマッケイン・フーズ社 (McCain Foods Ltd.)²⁹⁾ は、PEI 州とニュー・ブランズウィック州産のジャガイモを用いてフレンチ・フライを生産している。冷凍フレンチ・フライやスナック菓子で世界的に有名であるマッケイン・フーズ社は、1957年に設立された。当時、わずか30名の従業員で売上高が15万ドルでスタートした同社は、現在では世界6大陸で45の製造拠点をもち、19,000人の従業員を抱え、売上高80億ドルの会社へと成長している。160以上の国や地域で製品が提供され、世界で消費される3分の1のフレンチ・フライがマッケイン・フーズ社製である³⁰⁾。

ニュー・ブランズウィック州の製造業は、石油精製、パルプや紙製品、木材製品、フレンチ・フライの生産など、原油、林産物、農産物と言った第一次産品を加工していることが特徴となっている。

従来の伝統的な産業の他に、ニュー・ブランズウィック州は情報通信技術 (Information and Communication Technology) 産業、特にサイバー・セキュリティ分野の発展に力を入れている。インターネット上の脅威が増大している現状だが、それに対応できるプロの人材が不足している。このため同州ではサイバー・セキュリティ分野での新たな人材育成や技術開発の促進を目指し、独自のプランを作成・実行している³¹⁾。すでに IBM はニュー・ブランズウィック大学と合同で開発したセキュリティ・インテリジェンスに関する施設を2011年に買収し、ここが同社の世界的なセ

www.canadiansailings.ca/?p=6575&print=1 (2016年8月20日アクセス)。

26) J.D. Irving Limited, "World First Technology, Brilliant Results," <https://www.jdirving.com/jd-irving-products-services-forestry-products-irving-paper.aspx> (2016年9月5日アクセス)。

27) AV Group, "Facilities: Atholville Mill," <http://www.av-group.ca/en/facilities/av-cell> (2016年9月5日アクセス)。

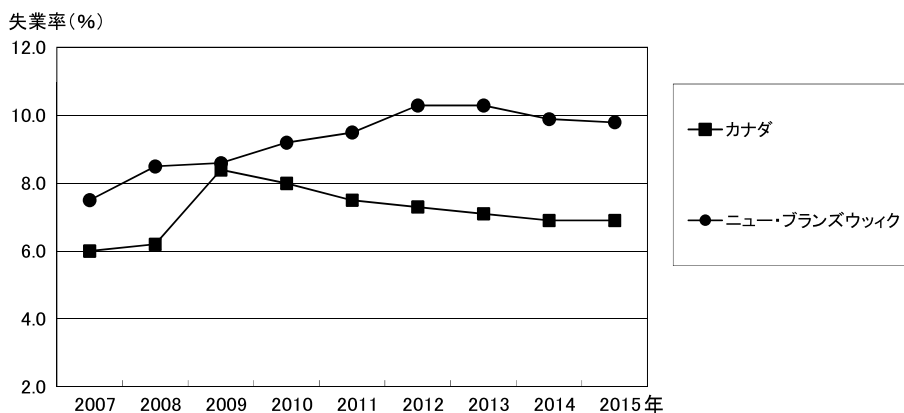
28) AV Group, "Facilities: Nackawic Mill," <http://www.av-group.ca/en/facilities/av-nackawic> (2016年9月5日アクセス)。

29) 前掲書、栗原 (2016)、pp. 62-63。

30) McCain, "About us," <http://www.mccain.com/about-us> (2016年8月16日アクセス)。

31) Opportunities New Brunswick (ニュー・ブランズウィック州経済開発公社)(2016)、「ニュー・ブランズウィック州への投資」、https://www.jetro.go.jp/ext_images/canada/pdf/newbrunswickseminarbrochure.pdf (2016年9月2日アクセス)、および「ニューブランズウィック州 経済セミナー開催」(2016)、http://torja.ca/business/jetro_toronto_business/ (2016年9月2日アクセス)。

図2 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の失業率（季節調整済み）



出典) Statistics Canada, CANSIM Table 282-0087 (2016年8月13日アクセス)。

セキュリティ部門の中心となっている。IBMはセキュリティ部門とITサービスセンターを拡張し、今後3年間で同州に250人分の新規の正規雇用を創出する予定である³²⁾。

次に失業率から経済動向を検討してみよう。図2は2007年から2015年までのカナダおよびニュー・ブランズウィック州の失業率（季節調整済み）を表わしたものである。カナダの失業率は2007年と2008年は6.0%と6.2%と6%台であったが、リーマン・ショック後の2009年と2010年は8.4%と8.0%と8%台へ上昇した。しかし、2011年から2013年にかけて7.5%、7.3%、7.1%へと、2014年と2015年には6.9%と徐々に低下している³³⁾。

ニュー・ブランズウィック州の失業率は、2007年に7.5%であった。この7.5%はニュー・ブランズウィック州にとって歴史的に低いものであった³⁴⁾。2008年には8.5%へ増加し、リーマン・ショック後の2009年には8.6%、2010年には9.2%、2011年には9.5%へ増加した。2012年と2013年には10.3%

32) IBM (2016), "New Brunswick and IBM to Create Up to 250 New Full-time Positions in Cybersecurity and IT Services," <http://www.ibm.com/news/ca/en/2016/03/24/j271886s73700111.html> (2016年7月31日アクセス)。

33) 本稿の失業率は、カナダ全体と10州が掲載されているカナダ統計局、CANSIM Table 282-0087 (2016年8月13日アクセス)に依拠している。また、栗原 (2013) で示されている失業率はカナダ全体のみ失業率で、カナダ統計局、CANSIM Table 282-0002 (2013年9月7日アクセス)に依拠している。2015年10月30日に後者のCANSIM Table 282-0002に再度アクセスしたが、カナダ全体の失業率の値は、両者の表では一致していない。さらに、CANSIM Table 282-0087のカナダの失業率はカナダ統計局によって、2015年12月4日に修正されているため、本稿と栗原 (2013, 2014a, 2014b, 2015, 2016) で示された値とは異なっている。

34) Service Canada (2014), *Sectoral Outlook 2013-2015, New Brunswick*, http://www.esdc.gc.ca/eng/jobs/lmi/publications/sectoral-outlooks/2013-15/nb_20140403.pdf (2016年7月31日アクセス)。

へとさらに増加し、2014年には9.9%、2015年には9.8%と依然高止まりを示している。2007年から2014年までの期間中、カナダの10州の中ではニューファンドランド州の失業率が最も高く、次にPEI州の失業率であった。2011年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の失業率は3番目に高かった³⁵⁾。本稿では論じられていないが、ノヴァ・スコシア州も含めて、沿海州の失業率がカナダの他州と比較して高いのが特徴となっており、これらの州では雇用創出が課題となっている。

労働力調査によると長期的に見ても、ニュー・ブランズウィック州のサービス部門の労働力は増加傾向にある。サービス部門の労働力は1976年に全体の68%弱であったが、40年間に79%にまで増加した。同期間中、財生産部門、とりわけ製造業の労働力の比率が減少した。ニュー・ブランズウィック州は1976年から2013年の間に4回の大きな景気後退を経験しており、特に製造業が1980年代初期と1990年代の景気後退で大きな影響を被った³⁶⁾。

ニュー・ブランズウィック州ではこの5年間にわたり人口の社会減が続いている。労働者は主にアルバータ州、オンタリオ州、ノヴァ・スコシア州へ転出している³⁷⁾。このため、州政府にとっては雇用創出が重要な政策課題となっている。産業政策の観点から、州政府は林業、水産業、鉱業、農業、オイル・ガスと言った伝統的な産業を支援している。一方、州政府は2012年に経済発展の行動計画を発表し、付加価値のついた食品、付加価値のついた木材、情報通信技術産業、バイオサイエンス、航空宇宙および防衛などの部門を戦略的な部門と位置づけ振興している。そして、バイオサイエンスでの発見が養殖業や農業に適用されるように、これらの新部門と伝統的産業の両者が相まって経済発展に貢献することを期待している³⁸⁾。

3 貿易からみたニュー・ブランズウィック州の経済動向

3-1 貿易額および貿易相手国の特徴

カナダは貿易依存度が高く、しかもアメリカへの貿易依存度が特に高いことが大きな特徴となっていることは、栗原（2011、2013）の中で検証されている。また、州レベルでも7州（オンタリオ州、ケベック州、アルバータ州、B.C.州、サスカチュワン州、マニトバ州およびニューファンドランド州）に限定しているが、貿易、特にアメリカとの貿易が州経済にとって重要であることは栗原（2014a、2014b、2015）の中で検証された通りである。PEI州の貿易依存度は他州に比較して高いとは言えないが、アメリカとの貿易は同州にとっても重要であることは栗原（2016）の中で解明された。

35) 同上、Statistics Canada, CANSIM Table 282-0087。

36) 前掲書、Service Canada, p. 14。

37) Government of New Brunswick, Department of Finance (2016), *The New Brunswick Economy: 2015 in Review*, p. 19, <http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/fin/pdf/esi/NBEconomy2015InReview.pdf> (2016年7月3日アクセス)。

38) 前掲書、Service Canada, pp. 14-15。

表2 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の上位5ヶ国の輸出相手国（商品貿易、通関ベース）

（単位：百万カナダドル、％）

ニュー・ブランズウィック																		
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015	
	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％
アメリカ	9,850	88.1	10,583	82.6	8,439	85.9	11,076	87.5	12,467	84.3	12,886	86.5	13,031	90.1	11,961	91.9	11,053	90.5
インド	65	0.6	48	0.4	115	1.2	95	0.8	45	0.3	89	0.6	67	0.5	97	0.7	109	0.9
中国	48	0.4	46	0.4	117	1.2	101	0.8	137	0.9	143	1.0	122	0.8	86	0.7	86	0.7
ブラジル	68	0.6	96	0.8	42	0.4	133	1.1	159	1.1	188	1.3	159	1.1	29	0.2	76	0.6
インドネシア	36	0.3	63	0.5	62	0.6	89	0.7	108	0.7	32	0.2	58	0.4	63	0.5	72	0.6
日本*	69	0.6	56	0.4	54	0.6	58	0.5	64	0.4	102	0.7	107	0.7	74	0.6	71	0.6
その他	1,047	9.4	1,916	15.0	996	10.1	1,114	8.8	1,810	12.2	1,463	9.8	916	6.3	705	5.4	743	6.1
輸出額合計	11,183	100.0	12,808	100.0	9,825	100.0	12,666	100.0	14,790	100.0	14,903	100.0	14,460	100.0	13,015	100.0	12,210	100.0

注) 2015年の日本の順位は第6位である。

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月15日アクセス)。

ニュー・ブランズウィック州の2014年の貿易依存度は、輸出が40.6%、輸入が41.6%³⁹⁾で、同州の貿易依存度は高い。このため、第3節では、ニュー・ブランズウィック州の貿易額、貿易相手国ならびに貿易品目の特徴を捉えることで、リーマン・ショック以後の貿易、特にアメリカとの貿易に焦点を当てて、同州の経済に与える影響を明らかにし、ニュー・ブランズウィック州にとっての貿易の意義を明らかにしたい。

表2は2015年におけるニュー・ブランズウィック州の輸出相手国（商品貿易、通関ベース）のうち、上位5ヶ国および日本に対する2007年から2015年にかけての輸出額を示したものである⁴⁰⁾。同州の2007年の輸出額（再輸出額を除く）は112億ドル⁴¹⁾であった。2008年には128億ドルへ増加した。リーマン・ショック後の2009年には98億ドルへ減少し、リーマン・ショックの影響がみられた。その後、2010年から増加に転じて、2010年の127億ドル、2011年の148億ドル、2012年の149億ドルまで増加した。しかし、2013年から減少に転じ、2013年の145億ドル、2014年の130億ドル、2015年には122億ドルへと減少した。

カナダ全体の輸出総額がリーマン・ショック以前の水準に達したのが2012年であるが⁴²⁾、ニュー・ブランズウィック州は2011年にリーマン・ショック以前の輸出水準にまで回復した。ところが前述の通り、2014年後半からの原油価格の下落が同州の輸出額の減少となって表われている。

ニュー・ブランズウィック州の最大の輸出相手国はアメリカで、2007年の99億ドルは輸出額合計の88.1%を占めていた。2008年のアメリカへの輸出額は106億ドルへと増加した一方、比率は82.6%へ減少した。2009年にアメリカへの輸出額は84億ドルへ減少した。2010年から2013年にかけて

39) 2014年のニュー・ブランズウィック州の名目GDPと同州の輸出額及び輸入額から算出。

40) 表2の上位5ヶ国は、2015年時点の上位5ヶ国を掲載している。なお、日本は2015年に第6位であった。

41) 本文の貿易額と貿易収支は、表に掲載している金額の千万ドルの位で四捨五入した値が記載されている。

42) 前掲書、栗原（2013）、p. 124。

表3 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の上位5ヶ国の輸入相手国（商品貿易、通関ベース）

(単位：百万カナダドル、%)

ニュー・ブランズウィック																		
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015	
	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%
アメリカ	2,090	28.0	2,490	23.2	2,402	25.6	2,692	25.2	2,818	20.6	3,331	25.6	5,857	43.6	7,317	54.8	5,312	50.2
サウジアラビア	1,797	24.1	1,895	17.6	1,446	15.4	1,925	18.0	2,593	19.0	2,487	19.1	2,645	19.7	2,532	19.0	1,935	18.3
メキシコ	34	0.5	48	0.4	76	0.8	120	1.1	118	0.9	237	1.8	250	1.9	307	2.3	436	4.1
ナイジェリア	80	1.1	352	3.3	81	0.9	817	7.6	1,756	12.9	1,332	10.3	330	2.5	0	-	371	3.5
ノルウェー	1,896	25.4	3,221	30.0	2,028	21.6	1,607	15.0	2,084	15.3	1,558	12.0	792	5.9	461	3.5	315	3.0
その他	1,564	21.0	2,738	25.5	3,363	35.8	3,537	33.1	4,290	31.4	4,057	31.2	3,561	26.5	2,732	20.5	2,214	20.9
輸入額合計	7,461	100.0	10,744	100.0	9,396	100.0	10,698	100.0	13,659	100.0	13,002	100.0	13,435	100.0	13,349	100.0	10,583	100.0
輸出額合計	11,183		12,808		9,825		12,666		14,790		14,903		14,460		13,015		12,210	
貿易収支	3,722		2,064		429		1,968		1,131		1,901		1,025		-334		1,627	

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月15日アクセス)。

てアメリカへの輸出額は漸増し、2013年には130億ドル(輸出額合計の90.1%)となった。しかし、2014年と2015年には輸出額はそれぞれ120億ドル(同91.9%)、111億ドル(同90.5%)へ減少した。ニュー・ブランズウィック州の輸出額は8割から9割がアメリカ向けであることが特徴である。

第2位以下の輸出相手国は年によって異なっており、またアメリカへの輸出に比較すると金額および比率も小さい。2015年の第2位以下の輸出相手国は、インド、中国、ブラジル、インドネシア、日本で、アジア諸国と南米ブラジルであった。ニュー・ブランズウィック州の輸出相手国上位にヨーロッパ諸国は含まれていない。

輸出に関しては、貿易相手国の好不況といった経済動向が輸出額の増減に影響する。IMFによると2015年と2016年のアメリカの経済成長は堅調であり⁴³⁾、これはニュー・ブランズウィック州にプラスに作用すると考えられる。さらに、カナダの為替レートの変動も貿易に影響する。2011年および2012年には、カナダドルはUSドルに対してカナダドル高、ないしパリティを示したが、2013年以降はカナダドル安が基調となっている。2015年の年平均の為替レートは、1USドルに対し1.28カナダドルであった⁴⁴⁾。最近のカナダドル安はカナダからの輸出を促進する力として作用している。

表3は2015年におけるニュー・ブランズウィック州の輸入相手国のうち上位5ヶ国の2007年から2015年にかけての輸入額および同州の貿易収支を示している。2007年のニュー・ブランズウィック州の輸入額は75億ドルで、2008年には107億ドルへ増加した。しかし、リーマン・ショック直後の2009年には94億ドルへ減少し、リーマン・ショックの影響がうかがえた。2010年から輸出額と

43) IMF (2015), 「IMFサーベイ：原油価格が下落し米国の成長が加速するも、世界成長見通しは下方修正に」(2015年1月20日)、<http://www.imf.org>から検索、new012015ajpdf.pdf (2016年9月18日アクセス)。

44) IMF Data, PGI Market Sector, <http://www.principalglobalindicators.org/regular.aspx?key=60942005> (2016年9月19日アクセス)。

表4 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州とアメリカとの貿易と貿易収支（商品貿易、通関ベース）

（単位：百万カナダドル）

		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
ニュー・ ブランズ ウィック	輸出額	9,850	10,583	8,439	11,076	12,467	12,886	13,031	11,961	11,053
	輸入額	2,090	2,490	2,402	2,692	2,818	3,331	5,857	7,317	5,312
	貿易収支	7,760	8,093	6,037	8,384	9,649	9,555	7,174	4,644	5,741

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月15日アクセス)。

同様に輸入額も増加し、107億ドルになった。2011年から2014年にかけて輸入額は130億ドル台で推移したが、2015年には106億ドルに減少した。

貿易収支は、2014年を除く、2007年から2015年の間毎年黒字で、2007年には37億ドルであったが、2009年には4億ドルへと減少した。2010年以降貿易黒字は増減し、2014年には3億ドルの貿易赤字を記録した。しかし、2015年の貿易収支は16億ドルの黒字に戻った。

2007年から2015年にかけてのニュー・ブランズウィック州の輸入相手国について、大きく2つのパターンが表3から読み取れる。1つ目は2007年から2010年にかけて、アメリカ、サウジアラビア、ノルウェーの3ヶ国からの輸入額が、2007年の輸入額合計の77.5%から2010年の58.2%を占めたことである。さらに、2011年と2012年には前記の3ヶ国とナイジェリアを含めた4ヶ国で、それぞれ67.8%および67.0%を占めた。2つ目のパターンは、2013年から2015年にかけてアメリカからの輸入額が輸入額合計の43.6%から54.8%、50.2%へと約5割へと急増したことである。この間、第2位の輸入相手国はサウジアラビアで、輸入額は輸入額合計の19.7%から18.3%を占めた。

ニュー・ブランズウィック州の貿易は、2007年から2015年の間、アメリカへの輸出額が輸出額合計の80%から90%台を占めているのが特色である。一方、2007年から2012年までのアメリカからの輸入額は輸入額合計の20%台であったが、2013年以降アメリカからの輸入額が急増し、2014年や2015年には輸入額合計の50%台まで占めるに至った。輸入に関してもアメリカとの貿易の比重が大きくなっているのが特徴である。このため、アメリカ経済の好不況はニュー・ブランズウィック州の経済に影響を及ぼすことは明らかである。

表4は2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州とアメリカとの貿易と貿易収支をまとめたものである。輸出額は2007年から2008年に増加し、2008年には106億ドルであったが、リーマン・ショック後の2009年に84億ドルへ減少した。2010年からは輸出額は111億ドルへ増加し、2013年には130億ドルに達したが、2015年には111億ドルへ減少した。一方、輸入額は2007年から2008年にかけて増加し、2008年には25億ドルになった。しかし、2009年には24億ドルへと減少した。2010年からは増加に転じ、2014年には73億ドルに達した。2015年の輸入額は53億ドルであった。

ニュー・ブランズウィック州とアメリカとの2007年から2015年にかけての貿易収支は一貫して

表5 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の上位5品目別輸出額（商品貿易、通関ベース）

（単位：百万カナダドル、％）

ニュー・ブランズウィック																		
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015	
	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％	輸出額	％
鉱物性燃料 (27)	6,953	62.2	8,744	68.3	6,402	65.2	8,737	69.0	10,689	72.3	10,760	72.2	10,322	71.4	8,701	66.9	7,339	60.1
魚・甲殻類 (03)	535	4.8	595	4.6	562	5.7	620	4.9	649	4.4	771	5.2	798	5.5	839	6.5	1,109	9.1
木材製品 (44)	506	4.5	329	2.6	279	2.8	358	2.8	367	2.5	404	2.7	490	3.4	554	4.3	597	4.9
紙製品 (48)	864	7.7	592	4.6	614	6.3	559	4.4	558	3.8	512	3.4	509	3.5	548	4.2	555	4.5
パルプ (47)	478	4.3	498	3.9	401	4.1	638	5.0	588	4.0	505	3.4	507	3.5	511	3.9	542	4.4
その他	1,847	16.5	2,050	16.0	1,567	15.9	1,754	13.8	1,939	13.1	1,951	13.1	1,834	12.7	1,862	14.3	2,068	16.9
輸出額合計	11,183	100.0	12,808	100.0	9,825	100.0	12,666	100.0	14,790	100.0	14,903	100.0	14,460	100.0	13,015	100.0	12,210	100.0

注) カッコ内はHarmonized Commodity Description and Coding System (HS)コードを表わす。

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月15日アクセス)。

ニュー・ブランズウィック州側の黒字である。2008年の貿易収支は81億ドルの黒字で、2009年に黒字幅は減少し60億ドルになった。2010年から黒字幅は増加に転じ、2011年には96億ドルに達した。その後黒字幅は減少し、2015年には57億ドルになった。2007年から2015年の期間中、アメリカとの貿易収支の黒字額は同州全体の貿易黒字額を大幅に上回っている。つまり、同州と他国との貿易赤字額をアメリカとの貿易による黒字額で埋め合わせていることが明らかである。このことは、アメリカとの貿易が州全体の貿易黒字に貢献しており、アメリカとの貿易がニュー・ブランズウィック州の経済にとって極めて重要であることを示唆している。

3-2 貿易品目の特徴

次に、貿易品目から貿易の特徴を捉えてみよう。表5は2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の品目別輸出額を示したものである。但し、2015年時点における上位5品目に限定している⁴⁵⁾。ニュー・ブランズウィック州の場合、2007年から2015年までの間、鉱物性燃料(27)⁴⁶⁾の輸出額が最も大きく、2009年の64億ドルから2012年の108億ドルの間で推移している。これは輸出額合計の62.2%から72.3%を占めている。

より詳細に貿易品目を見てみると、輸出品目の鉱物性燃料(27)はその大部分が石油製品(2710)である。2012年の鉱物性燃料の108億ドルのうち石油製品は95億ドルで、しかも同製品のアメリカへの輸出額は86億ドルであった。また、2015年の鉱物性燃料の輸出額は73億ドルで、そのうち63億ドルは石油製品で、同製品のアメリカへの輸出額は63億ドルであった⁴⁷⁾。前述の通り原油価格の下落

45) 同様に、表6の上位5品目は、2015年時点の上位5品目を掲載している。

46) カッコ内はHarmonized Commodity Description and Coding System (HS)コードを表わす。

47) 出典、Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月22日アクセス)。

表6 2007年から2015年までのニュー・ブランズウィック州の上位5品目別輸入額（商品貿易、通関ベース）

（単位：百万カナダドル、％）

ニュー・ブランズウィック																		
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015	
	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％
鉱物性燃料 (27)	5,032	67.4	7,845	73.0	6,398	68.1	7,379	69.0	10,000	73.2	9,283	71.4	9,785	72.8	9,290	69.6	6,275	59.3
鉱石・スラグ等 (26)	53	0.7	30	0.3	97	1.0	158	1.5	389	2.8	408	3.1	469	3.5	567	4.2	584	5.5
魚・甲殻類 (03)	208	2.8	221	2.1	202	2.2	281	2.6	278	2.0	313	2.4	349	2.6	459	3.4	554	5.2
一般機械 (84)	370	5.0	454	4.2	505	5.4	501	4.7	457	3.4	496	3.8	435	3.2	434	3.3	526	5.0
自動車関連製品 (87)	289	3.9	382	3.6	329	3.5	428	4.0	413	3.0	405	3.1	421	3.1	396	3.0	452	4.3
その他	1,509	20.2	1,812	16.9	1,865	19.8	1,951	18.2	2,122	15.5	2,097	16.1	1,976	14.7	2,203	16.5	2,192	20.7
輸入額合計	7,461	100.0	10,744	100.0	9,396	100.0	10,698	100.0	13,659	100.0	13,002	100.0	13,435	100.0	13,349	100.0	10,583	100.0

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月15日アクセス)。

は、石油製品が輸出額の6～7割を占めている同州の輸出額の減少として端的に表われている⁴⁸⁾。

第2位の輸出品目は魚・甲殻類で、輸出額は2007年に5億ドルで、輸出額合計の約5%を占めた。2009年を除いて輸出額は漸増し、2015年には金額は11億ドル、比率は9.1%へと増加した。主要な輸出品としてはロブスター、アトランティック・サーモン、ズワイガニ、ニシンやエビが挙げられる⁴⁹⁾。ちなみに、州政府の統計によると、2014年の海産物の輸出額は11億ドルで、そのうち84.5%はアメリカに向けて輸出され、第2位は日本向けで5.0%であった⁵⁰⁾。

第3位から第5位の輸出品目は、木材製品(44)、紙製品(48)、パルプ(47)といずれも林産物である。これら3品目の輸出額は2007年の18億ドル(輸出額合計の16.5%)から2009年の13億ドル(同13.2%)へ減少し、その後増減を繰り返し、2015年には17億ドル(同13.8%)となった。

ニュー・ブランズウィック州の主要な輸出品目は、鉱物性燃料、特に石油製品、魚・甲殻類、および林産物であることが明らかとなった。

輸入品目については、表6が2015年におけるニュー・ブランズウィック州の上位5品目別輸入額を2007年から2015年にかけて示している。同期間を通して、最大の輸入品目は鉱物性燃料(27)で、2007年には50億ドル(輸入額合計の67.4%)であったが、その後増加し、2011年には100億ドル(同73.2%)になった。2012年から2014年の3年間は90億ドル台の輸入がなされ、2015年には輸入額は

48) 前掲書、Government of New Brunswick, Department of Finance (2016), *The New Brunswick Economy: 2015 in Review*, p. 15。

49) Government of New Brunswick, Department of Agriculture, Aquaculture and Fisheries, "Seafood Product Information," http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/10/pdf/Publications/Factsheets_FeuilletsInformation/SeafoodProductInformation.pdf (2016年9月2日アクセス)。

50) Government of New Brunswick, Department of Agriculture, Aquaculture and Fisheries, "Commercial Fisheries Sector Review, 2014," <http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/10/pdf/Publications/Fish-Peches/ReviewFisheries2014.pdf> (2016年9月2日アクセス)。

63億ドル（同59.3%）へ減少した。

輸入されている鉱物性燃料を詳細に見てみると、その大部分は原油（270900）である。2007年の原油の輸入額は48億ドルで、サウジアラビアから18億ドル（原油輸入額の37.2%）、ノルウェーから19億ドル（同39.3%）輸入された。2010年からはサウジアラビアの19億ドル（同29.9%）とノルウェーの16億ドル（同24.3%）に加え、ナイジェリアから8億ドル（同12.7%）輸入された⁵¹⁾。2012年まではこの3ヶ国からの原油の輸入が中心であった。

2013年になると、アメリカからの原油輸入が急増した。同年、アメリカから26億ドル（原油輸入額の29.3%）、サウジアラビアから26億ドル（同30.0%）の原油が輸入された。2014年にはアメリカからの原油輸入は40億ドル（同50.7%）と増加し、サウジアラビアからは25億ドル（同32.0%）輸入された⁵¹⁾。2015年の原油輸入額はアメリカから20億ドル（同36.6%）、サウジアラビアから19億ドル（同35.7%）であった。2013年から2015年にかけてはアメリカとサウジアラビアからの原油輸入が原油輸入額全体の6割から8割を占めている⁵²⁾。

鉱物性燃料以外の主要な輸入品目としての鉱石・スラグ等（26）は、2011年の4億ドル（輸入額合計の2.8%）から徐々に増加し、2015年には第2位の6億ドル（同5.5%）になった。また、魚・甲殻類（03）も、2007年の2億ドル（同2.8%）から徐々に増加し、2015年には第3位の6億ドル（同5.2%）になった。

輸入品目第4位の一般機械（84）は2007年に4億ドル（輸入額合計の5.0%）であったが、2009年と2010年には5億ドルへ増加した。その後、増減を繰り返し、2015年には5億ドル（同5.0%）を越えた。第5位の自動車関連製品（87）の輸入額は2007年の3億ドルから2010年には4億ドルへ増加し、その後4億ドル台の輸入が続き、2015年には5億ドル（同4.3%）になった。

ニュー・ブランズウィック州の輸出入品目を詳細に検討した結果、同州の貿易の特徴は、石油製品を主としてアメリカへ輸出する一方、原油を産油国から輸入していることが明らかになった。原油の輸入国もかつてはサウジアラビア、ノルウェー、ナイジェリアが主要国であったが、ここ3年間はアメリカとサウジアラビアからの比率が大きくなっている。この貿易パターンはニュー・ブランズウィック州独自のものである。輸入した原油を精製し、石油製品として主にアメリカ市場へ輸出しており、アメリカとの貿易が同州の貿易黒字に大きく貢献していることも明らかになった。

こうしたことから、アメリカ経済成長の堅調さやUSドルに対するカナダドル安は、貿易を通してニュー・ブランズウィック州の経済にプラスに影響を及ぼすことも明白である。また、一般的に原油価格の下落は非産油の州にとってはプラスに作用するが、ニュー・ブランズウィック州のよう

51) 出典、Industry Canada, Trade Data Online (2016年8月15日アクセス)。

52) 同上。

に精製した石油製品を輸出している場合、石油製品価格の下落による輸出額の減少となって表われ、原油価格の下落によるプラスは相殺される⁵³⁾。

4 まとめ

ニュー・ブランズウィック州の経済動向は、経済成長率から見るとリーマン・ショックの影響が端的に表われており、また、2010年以降は停滞気味であることが明らかとなった。失業率に関しては、リーマン・ショック以降も増加傾向を示した。さらに、同州の輸出額および輸入額は2008年から2009年にかけて減少し、貿易の面でもリーマン・ショックの影響が読み取れた。

全体的なニュー・ブランズウィック州の経済の特徴は、2010年以降も経済成長率が低迷しており、しかも失業率が高止まりしていることである。さらに、同州の製造業は原油や林産物、農産物などの第一次製品の加工に依存していることも特徴の一つである。貿易面では、最近ではアメリカやサウジアラビアから原油を輸入し、それを精製して石油製品として主としてアメリカへ輸出しているという顕著なパターンが見られた。

輸出面でアメリカ市場への依存度が高く、2013年から2015年には輸出額合計の9割がアメリカ向けであった。また、アメリカからの原油輸入が増加した結果、2014年と2015年にはアメリカからの輸入額が5割に達した。しかも2007年から2015年の期間中、アメリカとの貿易収支は常に黒字で、この黒字でニュー・ブランズウィック州が他国との貿易の赤字を埋め合わせていることも解明された。こうした状況下で、同州の経済は、アメリカ経済の景気動向、米ドルに対するカナダドルの為替レートの変動、原油価格の動向に影響を受けることも明らかである。

このような特質を持つニュー・ブランズウィック州経済は、今後どのような方向に進んでいくのであろうか。同州も他の沿海州に見られたように、長期的には伝統的産業を維持しつつ、知識集約型産業の創出や発展による新分野に活路を求めて、現在の産業構造の多様化が図られて行くであろう。それに伴って、新たな雇用も創出され、経済の活性化が達成されるであろう。

参考文献

ARC国別情勢研究会 (2013)、『ARCレポート：経済・貿易・産業報告書、カナダ、2013/14』、ARC国別情勢研究会。
ARC国別情勢研究会 (2015)、『ARCレポート：経済・貿易・産業報告書、カナダ、2015/16』、ARC国別情勢研究会。
榎本悟 (2012)、「カナダの思惑：対米、対日、対中交易関係から見て」、『広島大学マネジメント研究』、第13号、pp. 167-179。

53) Government of New Brunswick, Department of Finance (2016), *2016-2017 Economic Outlook*, p. 5, <http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/fin/pdf/Budget/2016-2017/EconomicOutlook2016-2017.pdf> (2016年3月10日アクセス)。

- 栗原武美子 (2011)、『現代カナダ経済研究：州経済の多様性と自動車産業』、東京大学出版会 (第21回カナダ出版賞受賞)。
- 栗原武美子 (2013)、「リーマン・ショック以降のカナダ経済の動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第1号、pp. 117-137。
- 栗原武美子 (2014a)、「リーマン・ショック以降のカナダ4州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第2号、pp. 117-142。
- 栗原武美子 (2014b)、「リーマン・ショック以降のカナダ平原2州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第40巻第1号、pp. 169-193。
- 栗原武美子 (2015)、「リーマン・ショック以降のカナダのニューファンドランド・アンド・ラブラドル州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第41巻第1号、pp. 137-157。
- 栗原武美子 (2016)、「リーマン・ショック以降のカナダのプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第41巻第2号、pp. 57-75。
- ジェトロ (日本貿易振興機構) (2008-2009)、『ジェトロ世界貿易投資白書、各年版』、ジェトロ。
- ジェトロ (日本貿易振興機構) (2010-2015)、『ジェトロ世界貿易投資報告 各年版』、ジェトロ。
- ジェトロ (日本貿易振興機構)・海外調査部 (2010)、「米国発金融危機の経済とビジネスへの影響：各国・地域編」(2010年3月30日改訂版)、pp. 54-65。
- ジェトロ (日本貿易振興機構)・海外調査部 (2013)、「2013年の経済見通し：世界53カ国・地域」、pp. 52-58。
- 杉浦哲郎 (2013)、「多様性が生むしなやかさ、栗原武美子著『現代カナダ経済研究：州経済の多様性と自動車産業』」、『アメリカ太平洋研究』Vol. 13、pp. 174-180。
- ブライアン・K・マククリーン (2016)、「リーマン・ショック以降のカナダ経済：2015年からの回顧」(芳賀健一訳)、『経済学の座表軸：馬渡尚憲先生追悼論文集』(仙台経済学研究会編)、社会評論社、pp. 315-338。
- Atlantic Provinces Economic Council (2014), *Atlantic Canada's Economic Outlook: Moderate Growth Continues in 2015*, Halifax, Nova Scotia: Atlantic Provinces Economic Council.
- Atlantic Provinces Economic Council (2015), *Atlantic Canada Economic Outlook 2016: (S)lower for Longer*, Halifax, Nova Scotia: Atlantic Provinces Economic Council.
- Bloskie, Cyndi and Guy Gellatly (2012), "Recent Developments in the Canadian Economy: Fall 2012," *Economic Insights*, No. 019, Statistics Canada, Catalogue no. 11-626-X.
- Department of Finance Canada and James M. Flaherty (2009), *Canada's Economic Action Plan: Budget 2009*, Ottawa: Public Works and Government Services Canada.
- Department of Finance Canada and James M. Flaherty (2013), *Jobs, Growth and Long-term Prosperity: Economic Action Plan 2013*, Ottawa: Public Works and Government Services Canada.
- OECD (2012), *OECD Economic Surveys: Canada 2012*, Paris: OECD Publishing.
- OECD (2014), *OECD Economic Surveys: Canada 2014*, Paris: OECD Publishing.
- Savoie, Donald J. (2006), *Visiting Grandchildren: Economic Development in the Maritimes*, Toronto: University of Toronto Press.

E-References

- 「ニューブランズウィック州 経済セミナー開催」(2016)、http://torja.ca/business/jetro_toronto_business/ (2016年9月2日アクセス)。

- 三輪裕範・丸山義正 (2014)、「懸念を抱えつつも、潜在成長ペースで拡大を続けるカナダ」、*Economic Monitor*, 伊藤忠経済研究所, http://www.itochu.co.jp/ja/business/economic_monitor/files/20140620_2014-084_U_Canada.pdf (2014年12月14日アクセス)。
- IMF (2015)、「IMFサーベイ：原油価格が下落し米国の成長が加速するも、世界成長見通しは下方修正に」(2015年1月20日)、<http://www.imf.org>から検索、[new012015ajpdf.pdf](http://www.imf.org/new012015ajpdf.pdf) (2016年9月18日アクセス)。
- Opportunities New Brunswick (2016)、「ニュー・ブランズウィック州への投資」、https://www.jetro.go.jp/ext_images/canada/pdf/newbrunswickseminarbrochure.pdf (2016年9月2日アクセス)。
- Atlantic Provinces Economic Council (2009)，“Economic Update: Early Impact of the Recession in Atlantic Canada,” {DCC84FB5-0CD3-4760-942C-8EE92010C136} .pdf, (2014年12月7日アクセス)。
- AV Group, “Facilities: Atholville Mill,” <http://www.av-group.ca/en/facilities/av-cell> (2016年9月5日アクセス)。
- AV Group, “Facilities: Nackawic Mill,” <http://www.av-group.ca/en/facilities/av-nackawic> (2016年9月5日アクセス)。
- Bank of Montreal (2011-2014), *BMO Blue Book*, <http://www.bmonesbittburns.com/economics/reports/20110601/bb201106.pdf> (2011 ed.) (2014年9月1日アクセス)。
- Bank of Montreal (2016), “Provincial Monitor,” <http://economics.bmocapitalmarkets.com/economics/monitor/201605/monitor.pdf> (2016年7月30日アクセス)。
- Beale, Elizabeth (2011), “How Atlantic Canada’s Economy is Adapting to New Global Realities,” Atlantic Provinces Economic Council, {2E288FBF-ED85-4847-82EF-11CEE8E310C} .pdf, (2014年12月7日アクセス)。
- Bendiner, Jonathan (2013), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, [ProvincialForecast_July2013.pdf](http://www.td.com/document/PDF/economics/qef/ProvincialEconomicForecast_July2013.pdf) (TD Bank Groupより入手)。
- Bulmer, John (2014), “Provincial Trends,” June 27, 2014, http://www.gbm.scotiabank.com/English/bns_econ/ptrends_nl.pdf (2014年12月25日アクセス)。
- Burleton, Derek and Jacques Marciel (2012), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, [ProvincialForecast_July2012.pdf](http://www.td.com/document/PDF/economics/qef/ProvincialEconomicForecast_July2012.pdf) (TD Bank Groupより入手)。
- Burleton, Derek and Jonathan Bendiner (2014), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, http://www.td.com/document/PDF/economics/qef/ProvincialEconomicForecast_July2014.pdf (2014年8月21日アクセス)。
- Burleton, Derek, Michael Dolega, and Warren Kirkland (2016), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, [https://www.td.com/document/PDF/economics/qef/ProvincialEconomicForecast_Jul2016.pdf](http://www.td.com/document/PDF/economics/qef/ProvincialEconomicForecast_Jul2016.pdf) (2016年7月31日アクセス)。
- CBC News, “Edmundston Mayor Questions Energy East Pipeline Route,” <http://www.cbc.ca/news/canada/new-brunswick/neb-hearings-unanswered-questions-1.3721264> (2016年8月18日アクセス)。
- The Conference Board of Canada (2016), “Use of Forest Resources,” <http://www.conferenceboard.ca/hcp/provincial/environment/forest-resources.aspx> (2016年9月4日アクセス)。
- Etam, Terry, “Saudi Oil Filling a New Brunswick Refinery: What Kind of a Domestic Energy Policy is That?” <http://boereport.com/2016/01/25/saudi-oil-filling-a-new-brunswick-refinery-what-kind-of-an-energy-policy-is-that/> (2016年8月18日アクセス)。
- The Forest Products Association of Canada, “Economic Backbone Map,” <http://www.fpac.ca/canadian-forestry-industry/economy/#> (2016年8月20日アクセス)。
- Gillespie, Angus (2012), “Forestry in New Brunswick: A Major Force in the Provincial Economy,” *The Canadian Business Journal*, July 2012, http://www.cbj.ca/forestry_in_new_brunswick_a_major_force_in_the_provincial_econom/ (2016年8月20日アクセス)。

- Government of New Brunswick, Department of Agriculture, Aquaculture and Fisheries, “Commercial Fisheries Sector Review, 2014,” <http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/10/pdf/Publications/Fish-Peches/ReviewFisheries2014.pdf> (2016年9月2日アクセス)。
- Government of New Brunswick, Department of Agriculture, Aquaculture and Fisheries, “Seafood Product Information,” http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/10/pdf/Publications/Factsheets_FeuilletsInformation/SeafoodProductInformation.pdf (2016年9月2日アクセス)。
- Government of New Brunswick, Department of Finance (2005-2009), *The New Brunswick Economy 2005-2009*, http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/fin/pdf/Budget/2009-2010/NB_Economy_09-E.pdf (2009ed.) (2016年3月10日アクセス)。
- Government of New Brunswick, Department of Finance (2011-2016), *2011-2012 Economic Outlook, - 2016-2017 Economic Outlook*, <http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/fin/pdf/Budget/2016-2017/EconomicOutlook2016-2017.pdf> (2016-2017 ed.) (2016年3月10日アクセス)。
- Government of New Brunswick, Department of Finance (2009-2016), *The New Brunswick Economy: 2009 in Review - 2015 in Review*, <http://www2.gnb.ca/content/dam/gnb/Departments/fin/pdf/esi/NBEconomy2015InReview.pdf> (2016 ed.) (2016年7月3日アクセス)。
- IBM (2016), “New Brunswick and IBM to Create Up to 250 New Full-time Positions in Cybersecurity and IT Services,” <http://www.ibm.com/news/ca/en/2016/03/24/j271886s73700111.html> (2016年7月31日アクセス)。
- IMF Data, PGI Market Sector, <http://www.principalglobalindicators.org/regular.aspx?key=60942005> (2016年9月19日アクセス)。
- IMF Primary Commodity Prices, Monthly Data および Price Forecasts (August 18, 2016), <http://www.imf.org/external/np/res/commod/index.aspx> (2016年9月18日アクセス)。
- J.D. Irving Limited, “Quality Parent Rolls of Tissue for Leading Consumer Brands,” <https://www.jdirving.com/jd-irving-products-services-forestry-products-irving-tissue.aspx> (2016年9月5日アクセス)。
- J.D. Irving Limited, “World First Technology, Brilliant Results,” <https://www.jdirving.com/jd-irving-products-services-forestry-products-irving-paper.aspx> (2016年9月5日アクセス)。
- J.D. Irving, Limited, “World-class Pulp Quality and World First Innovation for the Environment,” <https://www.jdirving.com/jd-irving-products-services-forestry-products-irving-pulp-paper.aspx> (2016年8月20日アクセス)。
- Irvin Oil, “Refining,” http://irvingoil.com/operations_and_partners/operations/refining/ (2016年8月18日アクセス)。
- McCain, “About us,” <http://www.mccain.com/about-us> (2016年8月16日アクセス)。
- New Brunswick Forest Products Association, “About Us,” <http://www.nbforestry.com/about-us-2/> (2016年8月20日アクセス)。
- Royal Bank of Canada (2009-2016), *Provincial Outlook* (Quarterly), <http://www.rbc.com/economics/economic-reports/pdf/provincial-forecasts/provfcst-jun2016.pdf> (2016年7月31日アクセス)。
- Service Canada (2014), *Sectoral Outlook 2013-2015, New Brunswick*, http://www.esdc.gc.ca/eng/jobs/lmi/publications/sectoral-outlooks/2013-15/nb_20140403.pdf (2016年7月31日アクセス)。
- Statistics Canada, *The Daily*.
- Statistics Canada, “Service Bulletin, Canadian Potato Production, 2012” <http://www.statcan.gc.ca/pub/22-008-x/22-008-x2012003-eng.pdf>, (2015年11月18日アクセス)。
- TransCanada, “Energy East Pipeline,” <http://www.energyeastpipeline.com/about-2/route-map/> および <http://www.energyeastpipeline.com/about-2/need-for-a-pipeline/> (2016年8月18日アクセス)。
- Williams, Christopher, “Atlantic Canada’s Forest Products Sector Benefits from Effective Ports, Road and Rail

Connections,” <http://www.canadiansailings.ca/?p=6575&print=1> (2016年8月20日アクセス)。

データベース

ジェトロ、国・地域別情報 (J-FILE)、各国・地域データ比較。

ジェトロ、『通商弘報』。

日経テレコン21。

Industry Canada, Trade Data Online.

Statistics Canada, CANSIM Tables.

Recent Trends in the Economy of New Brunswick in Canada
after the Lehman Shock

Tamiko Kurihara

Abstract

This paper aims to clarify characteristics of the Canadian economy at the provincial level after the Lehman Shock of 2008, especially in relation to the American economy. Since eight Canadian provinces were scrutinized in my previous papers, the economy of New Brunswick is scrutinized here.

First, the economic performance of the province is examined, based on the growth rates of real GDP and the unemployment rates from 2007 to 2014/2015. An examination of the economy's GDP by industry is included. Second, characteristics of merchandise trade of the province are illustrated, particularly focusing on trading countries and trading items. The province's trade balances are also investigated. Finally, problems faced by the province are discussed.

According to the growth rates of real GDP from 2007 to 2014, the economy of New Brunswick had been stagnant after a recovery of 2.0% in 2010. The unemployment rates of the province were from 7.5% to 10.3% during the period between 2007 and 2015, and remained high among the ten Canadian provinces. Both growth rates of real GDP and unemployment rates revealed the effect of the Lehman shock on the New Brunswick economy.

In addition, New Brunswick's exports and imports decreased from 2008 to 2009, due to the impact of the Lehman shock. The largest exporting country for the province was the United States (U.S.), and the share of exports going to the U.S. gradually increased from 82.6% in 2008 to 91.9% in 2014. The largest importing country for the province had been the U.S., except for 2008, and the share of imports coming from the U.S. increased to 54.8% in 2014. The favorable trade balances with the U.S. significantly contributed to New Brunswick's favorable trade balances from 2007 to 2015.

It is a distinctive trading pattern that New Brunswick chiefly exported refined oil products mainly to the U.S., while it principally imported crude oil from the U.S. and Saudi Arabia. A stronger U.S. economy and the weaker Canadian dollar had a positive impact on the exports from the province. With the recent decline in global oil prices, the province's heavy dependence on energy exports will dampen some of the gain due to lower prices for refined oil products.